特集 9・鍼灸との出会い（その 1）

母の認知症（レビー小体型）と鍼灸治療

鍼灸専門学校 3 年生 佐川 聖子
（シルバーコースにて講演）

私の母は現在 74 歳です。病気にならなければ、夫婦や友人達と旅行等をして楽しんでいた年齢かもしれませんがありません。

7 年前からうつ症状が発症、車の運転で道を迷うようになったり、認知症と感じる言動が目立ち、次第に被害妄想、暴力へとエスカレートしていきました。当時、病院では「とりあえずアリセプト」が主流のようで、その頃から母は一気に悪化していった記憶があります。同居する父と近所に住む私は、一日一日を無事に過ごすことに精一杯でした。

3 年後に、専門の病院で検査を受け「レビー小体型認知症」と告げられました。この病気の特長は、薬の副作用が出やすいことです。これまで、暴力を抑える為、様々な薬を試して副作用を発症し、身体も心もボロボロになっていく母を見て、いたたまれな気持になりました。

薬以外に他に治療法はないのかと色々と調べ、サプリを購入したり。音楽療法や様々な治療法を試しました。しかし、どれも高額で長続き出来そうなものがない上、弱い立場の人を元に見て、病気を商業化している現実を知りショックを被せませんでした。

そのような時、図書館でふと東洋医学の本を手にしました。そこには、鍼によるアルツハイマー治療法が書かれています。早速、著者である先生の元へ母を連れて行きました。しばらく通った後、先生から「アルツハイマー治療に特化された日本の一の先生をご紹介しましょう」と老人病研究会の兵頭先生をご紹介頂いたのがきっかけで、現在も母は三焦鍼法による鍼治療を受けています。

2025 年には認知症患者数は 700 万人前後になるとされています。母のように薬の副作用に苦しむことなく、患者や家族が気を配る必要のない三焦鍼法の治療法が世の中に出られることを願っています。

今まで色々とありましたが、兵頭先生始め。西洋医学の観点から病気を対象に向き合うよう、ご指導下さった川並先生、そして、家族が手に負えなくなった時期に 10 カ月間、舞浜倶楽部に入居させて頂き、手厚いケアを受けられたこと。様々な出会いとご縁に恵まれ、感謝の気持ちで一杯です。

最後に私事ではございますが、母のお陰で鍼治療に興味を持ち、鍼灸学校に入学し、今年 3 年生になります。患者さんやご家族の喜びとして受け止められるような鍼灸師を目指して頑張りたいと思います。今後とも、母共々よろしくお願い致します。